13

書　く

知識・技能

作文を書く（作文の基礎）

名　前

解　答

★作文を書く際には、読み手に自分の思うこと、報告したいことなどが正確に伝わるよう、正しく分かりやすい表現で書くことが大切です。

◆作文を書くときのチェックポイント◆

チェック欄（らん）

□誤字・脱字や、送りがなの誤りはないか
□文体は統一されているか。
□話し言葉と書き言葉の使い分けは適切か
□文法上の誤りはないか。
□読点の位置や符号の使い方は適切か。
□文の長さは適切か。
□述べたいことが分かりやすいか。
□不要なところ、書き足りないところはないか。
□原稿用紙の使い方は正しいか。

※手引き⑬「作文の基礎に強くなろう！」を参考にすると具体的な書き方が分かります。

身に付けると…

伝えたいことが相手に分かりやすく伝わる文章を書くことができます。

やってみよう〔解答と解説〕

一　誤…引　→　正…弾

※同訓異字の使い分けは、誤字のチェックをするうえで、気を付けておきたいところです。ピアノなどの楽器を演奏する場合は、「引く」ではなく「弾く」と書きます。

二　誤…楽そうに　→　正…楽しそうに

※この場合は、前後の文脈から話をしている人の様子を考えると、「たのしそう」と表現するのが合っています。「たのしそう」と読む場合の送りがなは、「楽しそう」になります。

三

来週、市の文化ホールでピアノの発表会があります。

・文章全体が「敬体（です・ます）で統一されている点に注目します。第三段落の一文目は「……ある。」と、「常体（だ・である）」になっているので、この部分を敬体に書き改めます。

四

①　**大好きという**

②　**ことなので**

・「ピアノが大好きってわけではないけれど、ずっと続けていることなんで、…」の「大好きって」「ことなんで」という表現は話し言葉であり、会話文の中で使われるものです。書き言葉にする場合には「～という」「ことなので」というような表現が適切です。

五

先生は、

・だれが話しているのかを考えると、どこからが会話文なのかが分かります。この会話文の場合は、ピアノの先生の言葉です。

六

・私は先生から、たくさんのことを教えていただきました。（「教えてもらいました」も可）
・先生は私に、たくさんのことを教えてくださいました。（「教えてくれました」も可）

・～～～～線部の一文は、「私」が主語ですが、文末では、「先生」が主語になり、意味が通らない文になってしまっています。ここでは、「私は」という主語に対応するように、文末を書き改める必要があります。逆に「教えてくださいました」という述語と対応するように、主語を「先生は」に書き改めることもできます。なお、ここでは、本文中の表現に合わせて、敬語を使って書く方がより適切です。